



【地理学科】

現地を 歩く

「丹波市」跡では、かつての街道の繁栄の名残を探しました。

掲載の内容は、2019年11月に実施されたものです

地理のフィールドワークとは。まち歩きで体感

「宗教都市・天理の発展」をテーマに、天理のまちを1日かけて歩きました。天理駅前からかつて物資の集散地として栄えた「丹波市」跡を見て、天理教の本部へ。交通系に興味のある学生が多いこともあり、ちょうど天理大学附属博物館「天理参考館」で開催中だった「大阪市営交通114年の軌跡」展にも立ち寄り見学。さらに「山の辺の道」を経て、日本最古の神社の一つ「石上神宮」や吉野川から農業用水を引くために造られた水路「吉野川分水」まで足を伸ばしました。

宗教都市として有名な天理のまちですが、古道や古墳など古代からの史跡も数多く残っています。一方で、一般的な都市化を遂げている面もあり、かつての溜池を埋め立てたあとに現代的な住宅も建っています。点在する天理教の施設や門前町の様子からは特有のまちの成り立ちが見えてきますし、近年整備された天理駅の高架下や駅前広場の様子からは、市が古墳などの史跡を観光資源として地域振興にどのように活用しているかも見て取れました。さまざまなまちの変化に目を留めながら歩き、どのようなところに着目すればよいか、まちの見方の基礎を学びました。



参加者は巡検が初めての2年生なので、地理のフィールドワークとはどういうものか、基礎を知るのが大きな目的です。国土地理院の最新の地図を片手に、公園内の三等三角点、町内の地図や看板、街道の石橋の形状や民家の「うだつ」など、まち歩きの視点を示唆しながら歩きました。

文学部 地理学科
専門分野 / 人口地理学
酒井 高正 教授、専門地域調査士
SAKAI Takamasa

地理学科のフィールド・アクティビティ

- 日帰り巡検 (2年次、クラスごとに近畿圏内でフィールドワーク入門、上の記事はこの巡検)
- 国内長期巡検 (3年次、ゼミごとに国内各地にて3~4泊で地域調査の実践)
- 海外巡検 (2~4年次の希望者を対象に10日間前後)